編輯後記

○活字が小さくて讀みづらひとの批評もあるが制限された紙數に豐富な内容を盛るためにはどうしてもこんな形式になる譯だから多少讀みづらさは我慢していたゞいて當分此まゝで押し通すことにしたい。

○斯うした形式の機關紙の編輯にたづさわつて居る者、並に執筆者の一番知りたいこと、と云ふよりはげみになることは會員の聲を聞くことである。

大森林の中に飛び込んだやうに寂としてあたりに何の聲もないと云ふことは隨分淋しいことであり且つ今後の針路を確立するに全く當惑する。たつた一號しか出さないでこんな要求を出すのは少々蟲が良過ぎるかも分らないがほんとうに會員各位が本誌を讀んで居られるならば何等かの批判がある筈だと思ふいたす。

批判と迄ゆかなくとも氣づかれた所がありましたら注意していたゞければ幸甚だと思ふ。

○昨日行はれた、4、5月號の編輯會議に於ても此點が論じられて本月卷末に會員の聲を聞くカードを折り込んで各位の批判を集め今後の編輯方針決定に資する事にしたならばと言ふことになつたが、會員各位一人殘らずカードを利用されることを御願ひ。

○當へて土木學會誌に於て行はれて居たやうな論文の誌上討議を其の中に實行に移し讀者の關心を高めると共に執筆者の勵みに資したいと考へて居る。

○專門講座の開設と云ふことも考へられて居るが、どんな講座から始めたらよいか希望のある人はどんどん御知らせ願ひたい。

羽中田氏の「航空港土木」瀨戸氏の「自動車專用道路」に關する論文は一種の講座と見れば見られるものだが、現在仕事の上でこれ等に何の關係のない人も將來必ず必要になつて來る時期が到來するかも分らないから、本誌は遺漏しないやうに毎號叮寧に始末して置けば思はぬ利益することがあらうと思ふ。

其意味に於て本誌を藏書するに便利なやうに毎號綴穴をあけてありますから精々御利用願ひ度い。

○本誌は前號にも書いて置いたやうに決して堅苦しいものにする意向はないのだから、日常たづさわつて居る業務に就ての平易な報告書類は勿論のこと紀行、隨想等も大いに歡迎して居るのだから何人でも氣樂に書いて送つていたゞき度い。

會員各層からの寄稿があつて始めて滿洲土木學會の機關紙としての本誌の使命が達せられる譯で其意味に於て必ずしも六敷しい論文のみを望んで居る譯でない。

各地便りの欄等も創設したい意向であるが、短文でいゝから何人でも御自由に投稿願ひたい。

○3月も半を過ぎると新京も流石に春らしくなつた。

愈々本年の工事開始期もすぐ目の前に到來した譯であるが、前年以上の資材と資金の窮屈化は我々土木技術者の一段の工夫と研究を要求することであらうが、相變らざる總協力で此困難を克服したいものである。

（黑　田）